

護国神社(ごこくじんじゃ)は、大分市の市街地や臨海(りんかい)工業地帯をひと目で見たことができる高台にあります。

広い境内(けいだい)はアラカシやコナラの林におおわれ、春はブンゴウメやサクラの花、夏は昆虫採集、秋はドングリ拾い、冬は落ち葉を踏(ふ)んでの散歩など、四季を通して自然を楽しむことができます。参道は、緑につつまれて小鳥がさえずり、樹木(じゅもく)には名札(なざ)が下がっています。池にはカルガモがすみつき、夏

は甲羅干(こうらば)しをしているイシガメや牛に似た声で鳴くウシガエル(39ページ参照)がみられます。小川に沿(そ)ったスギ林の中はシダ類(シダ)が群生(ぐんせい)し、水辺にはセキショウ(セキショウ)がはえています。東の尾根(おね)の山道を登ると、初夏はコナラの新緑、スズランのような花がすずなりのネジキ、ヤマツツジの赤い花が人目をひきます。夏は、コナラやクヌギの樹液(じゅえき)にカブトムシやクワガタが集まります。秋から初冬はハゼノキやコナラの紅葉(こうよう)が美しく、ここには今も里山の風景が残っています。

